

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会



受賞おめでとうございます。
日々の安全就業に感謝いたします。



★令和5年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等が決定されました★

令和5年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等表彰団体は、安全就業優秀・優良シルバー人材センター等選定委員会において以下のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

受賞されたシルバー人材センター関係者の皆様、誠におめでとうございます。

【優秀賞】

- 加賀市シルバー人材センター(石川県)
- 刈谷市シルバー人材センター(愛知県) **2度目の受賞**
- 安城市シルバー人材センター(愛知県)
- 舞鶴市シルバー人材センター(京都府)
- 安芸高田市シルバー人材センター(広島県)

【優良賞】

- いわき市シルバー人材センター(福島県) ○行田市シルバー人材センター(埼玉県)
- 輪島市シルバー人材センター(石川県) ○磐田市シルバー人材センター(静岡県)
- 伊豆の国市シルバー人材センター(静岡県) ○蒲都市シルバー人材センター(愛知県)
- 名古屋市シルバー人材センター西部支部(愛知県) ○常滑市シルバー人材センター(愛知県)
- 美方郡広域シルバー人材センター(兵庫県) ○周南市シルバー人材センター(山口県)
- 仁淀川町シルバー人材センター(高知県) ○黒潮町シルバー人材センター(高知県)
- 大川市シルバー人材センター(福岡県) ○宮若・小竹シルバー人材センター(福岡県)
- 行橋市シルバー人材センター(福岡県) ○山鹿市シルバー人材センター(熊本県)
- 八代市シルバー人材センター(熊本県)

【優秀連合賞】

- 佐賀県シルバー人材センター連合会

【優良連合賞】

- 秋田県シルバー人材センター連合会

【安全就業スローガン】

- 最優秀作品「安全は 無理せず 焦らず 油断せず」

福岡県 公益社団法人柳川市シルバー人材センター 会員 熊丸 宣俊 様

○佳作「声掛けて 目指すゴールは ゼロ災害」

埼玉県 公益社団法人鳩山町シルバー人材センター 会員 植木 弘 様

○佳作「お互いを 守る声掛け 大事な仲間」

岡山県 公益社団法人浅口市シルバー人材センター 職員 藤野 孝子 様

令和5年5月（令和5年度）事故速報

（1）重篤事故

5月は、3件の重篤事故の報告がありました。

就業中・就業途上別にみると、就業中の事故は1件であり、令和4年度の2件と比して1件の増加となっており、また就業途上は、前年度と比して2件の増加となりました。

5月報告分までの累計

令和5年度累計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				令和4年度同月累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	3(1)	0(0)	3(1)	3(1)	0(0)	就業中	2	2	0	1	1	
就業途上	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)	2(2)	就業途上	0	0	0	0	0	
計	5(3)	1(1)	4(2)	3(1)	2(2)	計	2	2	0	1	1	

()は、当月分報告分

5月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全 帽	安全 帯	交通 手段
3	女 75歳	途上 (死亡)	清掃作業前、階段に座り手や顔は動かしていたが声をかけても応答がないので病院に搬送した。しかし、頭部内に出血があり急性硬膜下血種により亡くなられた。	—	—	徒歩
4	女 74歳	途上 (入院)	就業途上車とバイク出会いがしらの事故。頸椎損傷など	○	—	バイク

5	男 75歳	就業 (入院)	斜面で刈った草で滑り落ち側溝に倒れ込み脊椎を強打した。	○	—	—
---	----------	------------	-----------------------------	---	---	---

(2) 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

5月は、就業中の事故16件、就業途上の事故8件と、合計24件であり、昨年度同月29件と比して5件の減少となっています。また、男女別では、男性は15件で3件の減少、女性は9件で2件の減少となっています。

5月までの累計で比較してみると、昨年度の40件と比して、本年度は47件と7件の増加となっています。就業中・就業途上別にみると、就業中は33件で2件の増加となっており、就業途上は14件で5件の増加となっています。男女別では、男性は5件の増加となっており、女性は2件の増加となっています。

令和5年度5月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)		
		5月	累計	5月	累計	5月	累計	5月	累計	
就業中	植木・樹木の剪定等	5(9)	14(14)	5(9)	14(14)	0(0)	0(0)	73	76	
	除草作業	3(1)	5(1)	2(0)	4(0)	1(1)	1(1)	75	78	
	屋内・屋外清掃作業	5(6)	6(7)	1(1)	1(2)	4(5)	5(5)	77	78	
	その他	3(6)	8(9)	2(5)	6(7)	1(1)	2(2)	72	79	
	計	16(22)	33(31)	10(15)	25(23)	6(7)	8(8)	74	78	
就業途上	交通手段	徒歩	3(1)	6(2)	3(0)	4(2)	0(1)	2(0)	79	64
		自転車	3(5)	4(5)	1(2)	2(2)	2(3)	2(3)	72	77
		バイク	1(1)	3(2)	0(1)	1(1)	1(0)	2(1)	82	76
		自動車	1(0)	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	79	—
		計	8(7)	14(9)	5(3)	8(5)	3(4)	6(4)	77	74
合計		24(29)	47(40)	15(18)	33(28)	9(11)	14(12)	75	77	

()は令和4年度同月の発生件数

「シルバー人材センター団体傷害保険に係る事故件数等報告書」については、事故の有無にかかわらず毎月8日までに必ず提出願います(平成30年4月24日付 事務局長通達により通知済)。(※安全就業の手引(第六改訂)P109～P129掲載)

※ シルバー団体傷害保険の支払いが確定した事故については、速やかに「シルバー団体傷害保険に係る事故件数等報告書」により報告し、報告漏れがないようお願いします。

(3) シルバー派遣事業における労働災害報告の事故（休業1ヶ月以上）

3月は仕事の型別では、「その他の運搬・清掃・包装等の職業」「清掃の職業」「製品製造・加工処理の職業」2件、「商品販売の職業」「家庭生活支援サービスの職業」「飲食物調理の職業」「自動車運転の職業」、「運搬の職業」が1件であり、合計11件でした。前年同月の10件と比べ1件の増加となっています。また、男女別では、男性は2件の増加となっており、女性は1件の減少となっています。

3月までの累計で比較してみると、昨年度の127件と比して、本年度は120件と7件の減少となっています。また、男女別では、男性は、2件の減少となり、女性は、5件の減少となっています。

なお、3月に死亡事故はありませんでした。

令和4年度（3月分）

仕事の型（中分類）	中分類コード	事故数（件）		男性（件）		女性（件）		平均年齢（歳）	
		3月	累計	3月	累計	3月	累計	3月	累計
建築・土木・測量技術者	9	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—
その他の保険医療の職業	15	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—
社会福祉の専門的職業	16	0 (1)	3 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	3 (5)	—	67
教育の職業	19	0 (0)	1 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (2)	—	67
その他の専門的職業	24	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	69
一般事務の職業	25	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	—	71
出荷・受付係事務員	27	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	—	75
営業・販売関連事務の職業	28	0 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	—	—
外勤事務の職業	29	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	—	—
商品販売の職業	32	1 (0)	3 (5)	1 (0)	3 (1)	0 (0)	0 (4)	73	71
販売類似の職業	33	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—
営業の職業	34	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	—	73
家庭生活支援サービスの職業	35	1 (3)	8 (14)	0 (1)	1 (3)	1 (2)	7 (11)	73	72
飲食物調理の職業	39	1 (0)	4 (3)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (3)	75	73
施設・ビル等の管理の職業	41	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	—	—
その他のサービスの職業	42	0 (0)	6 (8)	0 (0)	2 (3)	0 (0)	4 (5)	65	74
農業の職業	46	0 (1)	3 (6)	0 (1)	2 (4)	0 (0)	1 (2)	74	74
林業の職業	47	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	69
生産設備制御・監視の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断)	49	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	72
生産設備制御・監視の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断を除く)	50	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	70
金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断の職業	52	0 (1)	1 (1)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	—	71
製品製造・加工処理の職業	54	2 (0)	6 (2)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	4 (2)	78	75
機械組立の職業	57	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	—	73
生産関連・生産類似の職業	64	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	—	75
自動車運転の職業	66	1 (0)	1 (3)	1 (0)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	73	73
採掘の職業	74	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	—	—
運搬の職業	75	1 (0)	4 (4)	1 (0)	3 (4)	0 (0)	1 (0)	67	70
清掃の職業	76	2 (1)	20 (18)	1 (0)	12 (8)	1 (1)	8 (10)	68	71
包装の職業	77	0 (1)	4 (2)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	3 (2)	—	75
その他の運搬・清掃・包装等の職業	78	2 (2)	45 (39)	2 (2)	31 (31)	0 (0)	14 (8)	67	74
計	—	11 (10)	120 (127)	7 (5)	66 (68)	4 (5)	54 (59)	71	74

() は令和3年度同月の発生件数

令和2年4月以降に発生した「派遣労働会員の業務災害(休業日数4日以上又は死亡)」、「派遣労働会員の通勤災害(休業日数4日以上又は死亡)」については、「全シ協会員専用ページ」の「シルバー派遣事業における労働災害報告」により、各月翌月最終稼働日までにご入力ください。また、労働災害(業務・通勤ともに)が発生しなかった場合も「労働災害未発生報告」を選択のうえ、各項目をご入力ください。
(令和2年4月22日付 2全シ協発第12号により通知済)

(4) シルバー派遣事業における通勤災害報告の事故(休業1ヶ月以上)

令和4年度は、合計17件で昨年度の28件から11件の大幅な減少となりました。通勤の型別では「転倒」が12件で、昨年度の19件から7件の減少となり、全体の71%を占めています。「交通事故(道路)」は4件で、昨年度の8件と比して2件の減少、その他「その他」、1件となっています。男女別の内訳は男性9件で4件の減少、女性は8件で7件の減少となっています。

なお、死亡事故はありませんでした。

	事故の型	事故数(件)	男性(件)	女性(件)	平均年齢(歳)
通勤災害	転倒	12(19)	4(8)	8(11)	74
	交通事故(道路)	4(8)	4(5)	0(3)	72
	墜落・転落	0(1)	0(0)	0(1)	—
	その他	1(0)	1(0)	0(0)	74
	計	17(28)	9(13)	8(15)	73

() は令和3年度の発生件数

★ 安全・適正就業強化月間 ★

◎ 国が実施する「全国安全週間」に合わせ、7月は「安全・適正就業強化月間」の月です。職員、会員の皆さんで組織をあげて、事故の撲滅を図り「安心・安全」のシルバー事業の発展を図りましょう。

1 安全・適正就業強化月間

令和5年7月1日から令和5年7月31日までとする。

2 全国統一スローガン

安全は 無理せず 焦らず 油断せず

3 シルバー人材センターで取り組む事項

(1) 安全・適正就業委員会の開催、「安全・適正就業対策基本計画」の策定及び事故の要因分析と具体的な防止策の徹底

(2) 重篤事故につながる就業の見直し

ア 危険・有害な作業は受託しないこと

イ 作業別安全・適正就業基準に掲げる安全保護具の完全着用の徹底を図ること

なお、安全帽・墜落制止用器具(安全帯)等の安全保護具を未着装のままで就業した場合、申し合わせによって事故の有無に拘わらず就業者には就業停止等の措置を講じるなど安全就業の徹底を図ること

ウ 健康チェックや健康講話等の実施、健康診断の積極的な奨励などの健康増進策を図ること

(3) ヒヤリ・ハット体験事例を収集し、要因を分析した対策を講じた事故の防止の徹底

- (4) 損害賠償責任保険事故が多く発生し、保険財政が破綻寸前となっていることから、特に草刈作業における飛散防止対策の徹底を図ること
- (5) 就業途上における交通事故の防止
 - ア 交通安全に関する講習会の実施及び交通安全対策の徹底
 - イ 事故多発エリアのロードマップ等の作成
 - ウ 徒歩、自転車及びバイクでの事故の防止の徹底
 - 特に改正道路交通法の施行による自転車に乗る際のヘルメット着用の徹底
 - 及びサイクル安心保険への加入促進
- (6) 安全就業対策の総点検の実施
 - ア 就業前、就業後の安全意識等の徹底
 - イ 機械器具の点検と整備の徹底
 - ウ 安全保護具の点検と整備の徹底
 - エ 巡回パトロールの重点実施
 - オ 就業現場の総点検
 - カ 交通安全対策の徹底
- (7) 安全就業の研修及び点検
 - 安全就業に係る事例発表を含む研修会、講習会等の実施
- (8) 適正就業ガイドラインに沿った業務運営の実施
 - ア 適正就業ガイドラインを活用した研修・周知（平成28年9月13日付け28全シ協発第125号）
 - イ 請負又は委任契約の「受注リスト」による点検等について（令和3年9月16日付け事務連絡）
 - ウ 契約書及び仕様書の作成・取交しの徹底
 - エ 会員と発注者の間に指揮命令関係が生じる請負契約又は委任契約について、派遣契約への切り替え若しくは職業紹介の実施による雇用
- (9) 会員からの安全標語の募集、シルバー人材センター・施設・就業現場等への安全標語、垂れ幕、ノボリ等の掲示などによる会員すべての安全意識の徹底
- (10) 会報等への安全意識啓発のための特集記事の掲載
- (11) 会員に対して安全意識啓発及び情報の共有化を図るための資料等の配付など
- (12) 月間中における「安全意識高揚の日」の設定及び安全表彰の実施

4 シルバー人材センター連合本部で取り組む事項

- (1) シルバー人材センターに対する上記4の指導・助言
- (2) 安全大会の実施及び安全表彰の実施
- (3) 安全・適正就業に関する研修会、講習会等の実施
- (4) 巡回パトロールの実施
- (5) シルバー人材センターの月間行事の実施についての指導・援助
- (6) 安全就業及び適正就業に係る取組事例等の情報収集、作成・提供

～長野県における安全就業の取り組み～

公益社団法人長野県シルバー人材センター連合会の概要

(令和5年3月31日現在)

センター数 21 団体

会員数 15,999 人 (男性 10,827 人 女性 5,172 人)

受注件数 95,139 件 (請負・委任 93,923 件 派遣 1,216 件)

契約金額 8,880,899 千円 (請負・委任 7,524,043 千円 派遣 1,356,856 千円)

総合就業実人員 14,306 人

総合就業率 89.4%

就業延人員 1,766,079 人日 (請負・委任 1,502,068 人日 派遣 264,011 人日)

1 事故発生状況

(1) 過去5年間の傷害・賠償事故件数 (件)

		H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
傷害事故	就 業 中	92	88	84	77	99
	就業途上	16	11	11	16	11
	合 計	108	99	95	93	110
損害事故		83	86	107	115	96

※傷害事故の令和4年増加要因は蜂に刺された事故が前年に比べ19件増加。

※損害事故は飛散させた物で損壊と器具・用具を接触して損壊事故が75件と損害事故件数の78%を占める。

(2) 過去5年間の重篤事故件数 (件)

	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
就業中	2	0	2	0	0
就業途上	0	0	0	0	0
合 計	2	0	2	0	0

※重篤事故は、過去5年間で4件発生した。剪定作業中の墜落・転落事故が2件、果樹園芸作業での墜落・転落事故が1件、剪定作業中に蜂に刺されての事故が1件発生した。

2 令和4年度安全就業への取り組み

(1) 安全・適正就業対策推進委員会等の設置と開催

連合会では、県内各センターの会員の安全・適正就業と健康の確保に関する事項を検討し、その対策を推進するため、連合会に「安全・適正就業対策推進委員会」を設置し4月と9月と翌年2月の年3回、同委員会を開催している。

第1回は、委員長等の選任、前年度事業の取組み結果、事故発生状況報告、当該年度の年次計画の策定及び重点目標の設定、安全パトロールの実施計画を決定している。

第2回は、安全標語の審査承認、安全・適正就業パトロールの実施結果報告、第2四半期までの事故状況の説明とともに、各センターの会員に対する安全意識の徹底や適正就業のための取組みについて意見交換を行っている。

第3回は、第3四半期までの事故発生状況説明、次年度安全・適正就業推進の重点目標の策定、次年度安全・適正就業推進年次計画の策定とともに、事故状況の確認及び安全意識の徹底や適正就業のための取組みについて意見交換を行っている。

(2) 安全・適正就業パトロールの実施

連合会では、安全・適正就業パトロールをシルバー人材センター事業「安全・適正就業強化月間」に合わせ7月から9月までの間、全21センターで毎年実施しています。参加者は安全・適正就業対策推進委員会委員、安全・適正就業パトロール指導員、事務局職員と各シルバー人材センターの安全委員会委員、安全就業推進員、事務局職員と共に植木剪定、機械除草のいずれかの就業現場を実施しています。就業会員に対して安全就業の意識の向上や事故防止について指導している。

パトロールは、傷害事故が起きやすい剪定現場や飛び石などの賠償事故の多い草刈り現場を中心に実施し、服装・装備、就業前ミーティングの実施状況など基本的な部分を確認し、特に、剪定現場では、ヘルメットの着用、墜落制止用器具の使用、脚立の取り扱いなどをチェックしている。また、草刈り現場では、飛び石防止対策、作業中の周囲の安全確認、器具の点検が適切に出来ているかなどの指導を実施している。

パトロール終了後は、各シルバー人材センターの安全委員会委員、安全就業推進員、事務局職員と当該現場での安全就業対策について検討会を行い、不適切なものについては改善を図るよう指導している。また、県内の事故の発生状況や事故の内容、分析などを説明するとともに、安全対策の好事例等を紹介し、今後の事故防止に役立てることとしている。

※安全・適正就業委員会委員、安全推進員によるパトロールの様子





(3) 安全就業推進研修会（KY 活動指導者養成研修）の実施

KY 活動を実践するための人材育成研修会として各センターの安全推進員、安全委員等を対象に県内を5ブロックに分けてブロック毎に実施しています。KY 活動指導者養成研修は平成27年度から実施し、現在までに約500名近い会員が受講しています。令和2年度からは新型コロナウイルス感染防止策を講じて実施しております。



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、密を避けて少人数で短時間での実施。

※実際の実技演習は行わずにパワーポイントでの模擬演習の様子。

※令和元年実施の KYT 講習会の様子。
今年度は実技演習で実施を計画しています。



(4) 各センターが行う研修・講習会への支援

各センターが実施する研修会・講習会へ出席し安全就業の講習を行った。



令和4年度4会場、令和2年度2会場、令和元年度2会場にて実施。

(5) 安全ニュースの発行

安全就業や健康管理に関する時々の情報（腰痛を予防しましょう、健康診断を受診しましょう、飛び石事故防止対策の徹底を、新しい生活様式を健康に、STOP！転倒災害、7月は安全適正就業強化月間、蜂刺され！9月10月は危険な時期、令和4年度安全・適正就業標語が決定、昨年の転倒事故は29件、基本を守って交通事故を防ぐ、冬季に多発する高齢者の入浴事故に注意しましょう等）をタイムリーに提供し、各シルバー人材センターでの適時の事故防止などの注意喚起や呼掛けに活用するように促す。

発行日	安全ニュースのテーマ
令和4年5月	「新しい生活様式」を健康に
6月	STOP！転倒災害！
7月	7月は「安全・適正就業強化月間」です
8月	蜂刺され!! 9月10月は危険な時期
9月	天候の急変に注意を
10月	令和4年度安全・適正就業標語が決定しました
11月	昨年の転倒事故は29件
12月	基本を守って交通事故を防ぐ!!
令和5年1月	冬季に多発する高齢者の入浴事故に注意しましょう
2月	ノロウィルス食中毒注意報が発出されました
3月	定期健康診断を受診しましょう!!
4月	飛び石事故防止対策の徹底を！

(6) シルバーながの (季刊誌) での飛び石事故注意喚起 (第 49 号 2023.3 月発行)

**損害賠償責任保険
財政がピンチ!**

— 事故を減らしましょう —

剪定や草刈りなどの請負事業における事故に備えて加入している全シ協の保険が、多発する事故により損害賠償金が膨れ上がり、来年度から保険料を約20%引き上げなければならない事態となっています。
特に、草刈り作業中の飛び石による事故が非常に多く、件数で約54%、賠償金額の約60%を占めており、これを減らしていくことが急務となっています。
物損事故で済むならまだしも、もし人身事故になってしまったら大変なことで、後悔しても間に合いません。自分だけは大丈夫だという誤った考え方を捨てて、「自分も周りも絶対に安全を確保する」という真剣な気持ちで常に作業に当たってください。「もしあの時こうしていたら」では済まされない経験は誰もしたくありませんよね。



- ①きちんとした安全装備の装着で自傷事故防衛
- ②傾斜地における作業時はバイク着用で
- ③蜂毒の抗体レベルの表示と刺され場合に仲間知らせるホイッスル
- ④無理のない姿勢での作業励行
- ⑤仲間と適切な間隔を保って、整然とした作業
- ⑥段ボールを利用した屋外機械など飛び石保護
- ⑦仲間の飛散防止ネット保持のお陰で安心して作業
- ⑧構造物の保護で、キックバックの防止も
- ⑨看板設置で、通行人に注意喚起

3 事故防止に向けた取り組み

長野県における重篤事故は、冒頭の表のとおり最近2年間、事故は発生していないものの、傷害・賠償事故の発生件数は、令和2年度から昨年度までは200件前後で推移しています。令和4年度は、傷害事故が110件、損害事故が96件と併せて206件発生しました。

安全で健康な毎日があつての就業が基本です。事故原因の9割超は防げる事故「人為的ミス」が原因です。自分自身が、安全を確認し、安全・安心な就業をおこなう、「自分の安全は自分で守る」という意識向上を安全就業推進研修会 (KY 活動指導者養成研修) を通して、会員の自己管理能力の向上を更に図ります。

事故の発生原因を重視した対策 (事故につながる前に芽を摘み取る=先取り安全“危険ゼロ”) に取り組み、“危険ゼロ”の実現に向け、具体的取り組みとして「就業前安全ミーティングの完全実施」、「安全装備使用の徹底」、「健康診断受診及び健康体操の奨励」「交通事故防止」「安全・適正就業委員会、推進員による安全対策の点検と徹底による事故防止体制の確立」を重点目標に設定し、毎月発行しています安全ニュース、また安全・適正就業パトロールによる点検及び点検結果の各センターへのフィードバック、定期的な事故状況の把握・事故内容の分析及び分析結果の各センターへの提供により、会員お一人おひとりの安全に対する意識が更に向上されますように粘り強く推進してまいります。

★★★長野県シルバー人材センター連合会からの報告でした。
ご報告、誠にありがとうございました。★★★

編集後記

今年は全国各地で早々と梅雨入り。去年の失敗を繰り返さないよう、自宅の青梅も早々に収穫しましたが、いつになく大量に実っていて、使い切れずに終わりました。全シ協では毎年、無事故で安全に関する各種取組を積極的に行っているセンター等を表彰しています。今年度は2連合を含む24団体が受賞されました。二度目の優秀賞に輝いたセンターもありました。受賞されたセンター、連合のみならず、おめでとうございます。これも日頃からセンター、連合が中心となり、会員のみならず一人ひとりが安全に対して、積極的に取り組んでいただいた賜物だと思います。この受賞を励みにこれからも常に安全を意識し、無事故が継続することを願っています。また、新しい安全就業スローガンも決まりました。シルバー事業にふさわしいとてもいいスローガンだと思います。このスローガンを胸にシルバー事業遂行の根幹をなす「安全就業」に努めていただければと思います。(松山)

1年ほど前に、我が家の双子猫のひとりが脳疾患により時々発作を起こしている状況をこちらの記事に掲載しました。その後、薬により症状をコントロールし普段通りに生活していましたが、4月下旬に大きな発作が起き、一夜にして光りと音を失い半身不随となりました。一時は死を覚悟しましたが、何とか一命を取り止めたものの、現在は生活の全てにおいて介助が必要な状態です。それでも動物の本能なのか、生きようとする魂の強さにこちらが勇気をもらっています。ご飯は粥状にしたものをむさぼりついて食べ、トイレもしっかりしてくれていることは救いです。足が動かないのに何とか自分で立ってご飯を食べに行こうとしたりトイレに行こうとしたり、何度も挑戦している姿には感動を覚えます。以前のように自然に膝に乗ってきたり、横で一緒に寝ることは叶わず残念で寂しいけれど、介護していても可愛いことには変わりはありません。何とか長生きしてほしいと願うばかりです。居てくれるだけで家に花が咲いているかのような雰囲気です。その一方、もう一人の妹猫は、姉猫に付き切りのため嫉妬がひどくなんで私の相手をしてくれないの表現をします。かわいそうですが、また、それをみて楽しんでもあります。人も猫も変わりませんね。猫の事をシルバー人材センターに例えるのは可笑しいかもしれませんが、身体が不自由になっても人生は終わりではありません。毎日小さな奇跡があり進化するのです。シルバーの会員さんには生き甲斐を持ってもらえるよう、できる仕事を探すことも必要かと思います。また働けなくなってもシルバーに残りたいと思ってくれる方もいるはずです。生涯会員でいられる組織を目指し、実現できるよう、できることを考えましょう。(高木)

★速報★ 賠償責任保険にかかる事故件数（統計速報値）

残念ながら、損害賠償責任保険事故が、令和4年度において3,753件発生し、令和3年度よりも115件を上回りました。

また、仕事の内容別でみると、「除草、除草剤散布、草刈り」が2,487件（66%）で令和3年度よりも131件増加しております。型別では、「飛散させた物で損壊」が2,054件（55%）で49件の増加となっています。

このため特に草刈り時の飛散防止対策の徹底を図る必要があることから、作業の注意点などを取りまとめた動画を制作しました。各シルバー人材センター及び各都道府県シルバー人材センター連合におかれましては、これを活用いただき、損害賠償事故の撲滅に努めていただきたくよろしくお願いいたします。

全シ協 会員専用ページ リニューアルサイト 動画一覧からご覧ください。

(※DVDの貸出しも行っております。)